

愛称：いちばん星
いちよし・グローバル株式ファンド

マンスリーレポート

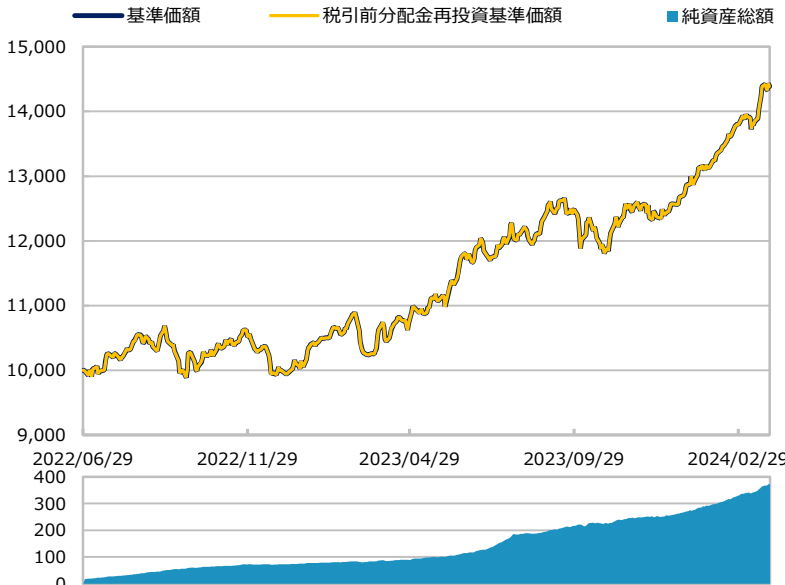
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年03月29日

ファンド設定日：2022年06月30日

日経新聞掲載名：いちばん星

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	14,388	+593
純資産総額（百万円）	37,152	+4,269

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

ご参考

	当月末
ハイ・ウォーター・マーク（HWM）（円）	14,434

- HWMとは、実績報酬を算出する際の基準となる価額であり、実績報酬控除前の基準価額がHWMを超えると、原則として実績報酬が発生します。
- 実績報酬が発生した場合、原則として当該営業日の基準価額が翌営業日からのHWMとして採用されます。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/02/29	4.3
3 カ月	2023/12/29	14.5
6 カ月	2023/09/29	15.3
1 年	2023/03/31	35.5
3 年		
設定来	2022/06/30	43.9

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- 換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りと異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2023/06/12	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
日本株式（バリュー）	28.9	+0.6
日本株式（中小型）	26.7	+0.0
米国株式	21.4	+0.2
欧州株式（バリュー）	2.3	+0.1
欧州株式（小型）	2.3	+0.0
新興国株式	14.7	-0.1
現金等	3.6	-0.9
合計	100.0	0.0

※ 実際の運用は、投資信託証券（ETFを含む）への投資を通じて行います。組入投資信託については、4枚目以降をご覧ください。

運用概況

当月末の基準価額は、14,388円（前月比+593円）となりました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+4.3%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



組入投資信託の騰落率 (%)	1か月						3か月						6か月						1年						3年						設定来						当月騰落率 (%)		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	0	5	10						
日本株式 (バリュー)	7.7						26.8						21.1					62.9						-									7.7						
日本株式 (中小型)	2.3						10.4						12.6					28.6						-									2.3						
米国株式	4.5						9.0						21.7					27.8						-									4.5						
欧州株式 (バリュー)	5.6						5.6						13.7					15.5						-									5.6						
欧州株式 (小型)	3.9						1.3						16.4					10.5						-									3.9						
新興国株式	2.9						2.7						10.2					10.1						-									2.9						
<ご参考>																																							
円/アメリカドル	0.5						6.8						1.2					13.4						-									10.8						

- ※ 組入投資信託の騰落率は、ファンドの騰落率と整合を図るため、原則として基準日前日の数値を基に算出しています。
- ※ 組入投資信託については、4枚目以降をご覧ください。
- ※ 日本株式は円ベースの騰落率です。米国株式、欧州株式、新興国株式はアメリカドルベースの騰落率です。
- ※ 為替レートは一般社団法人 投資信託協会が発表する仲値 (TTM) です。

ファンドマネージャーコメント

3月の当ファンドの基準価額（税引前分配金再投資ベース）は上昇しました。

組入投資信託証券別では、日本株（バリューおよび中小型）、米国株、欧州株（バリューおよび小型）、新興国株全てにおいてプラスリターンとなりました。（日本株式：円ベース、外国株式：米ドルベース）。

米ドル/円は、一進一退となりました。上旬は、低調な米景気指標や日銀が3月の会合でマイナス金利政策の解除に動くとの観測から、米ドル安・円高となりました。中旬以降は、米金利上昇に加え、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を当面継続する考えを示したことから、米ドル高・円安となりました。月末にかけては、政府・日銀による為替介入が警戒される中、もみ合い推移となりました。

国・地域の投資配分比率については、いちよし証券からの投資助言を活用しています。3月末の地域配分目標（現金部分を除く）は、日本57%、米国22%、欧州5%、新興国16%としています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ファンドマネージャーコメント

＜日本株式市場＞

国内の株式市場は、上昇しました。上旬は、米ハイテク株高、米ドル高・円安進行、海外投資家の買いが支えとなり、上昇しました。中旬にかけては、日銀が3月中旬にマイナス金利解除に踏み切るとの見方が広がったことにより米ドル安・円高が進行したことから下落に転じましたが、米国株の堅調な動きが続いたことなどを支えに国内の株式市場も反発し、上昇基調が続きました。下旬は、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を当面継続する考えを示したものの、将来の金融政策正常化が意識され、高値圏でもみ合う展開となりました。

＜米国株式市場＞

米国株式市場は上昇しました。月初、アップルやテスラなど、中国での販売伸び悩み懸念から下落する銘柄が散見されました。中旬にかけても、CPI（消費者物価指数）が予想をやや上回る内容だったことなどから、上値が重くなる局面がありました。ただし、FOMC（米連邦公開市場委員会）を経て、金融緩和策への転換に変化がないことや、堅調な景気動向に対する安心感が支援材料となり、その後は高値を追う展開となりました。またエヌビディアが新製品を発表するなど、生成AI関連市場を巡る業績成長機会の広がりも、引き続き相場の材料となりました。

＜欧州株式市場＞

欧州株式市場は上昇しました。ECB（欧州中央銀行）の利下げ期待が高まり、景気停滞の懸念が緩和したことが主な上昇要因となりました。また、スイス中銀が利下げを実施したことや、米国のFOMCで緩和転換のスタンスに大きな変化がなかったことも好感されました。

＜新興国市場＞

新興国株式市場は上昇しました。アジア地域を中心に上昇しました。アジア地域では、世界的なAI関連市場の成長期待を背景に半導体関連企業や電子機器受託生産企業の株価が台湾市場の上昇を牽引したほか、韓国では堅調な半導体メモリ価格などを背景に大手電子機器・電気製品メーカーの株価が上昇しました。アジア以外の地域ではメキシコが堅調でした。インフレ率の低下を受けてメキシコ銀行（中央銀行）が2021年以來の利下げに転じたことが好感されました。ブラジルは軟調でした。BCB（ブラジル中央銀行）は市場予想通り追加利下げを実施したものの、先行きの利下げ継続について以前よりも慎重なスタンスに変化したことが嫌気されました。

※各国の上昇下落のコメントはMSCI指数、ローカル通貨をベースに記載しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは、三井住友DSアセットマネジメント株式会社のデータおよび情報を基に記載しています。

日本株式（バリュー）：SMDAM日本株EVIハイアルファ（FOFs用）（適格機関投資家専用）

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	98.6	-0.7
プライム	98.1	-0.7
スタンダード	0.5	-0.0
グロス	0.0	0.0
その他	0.0	0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	1.4	+0.7
合計	100.0	0.0

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 輸送用機器	13.6	+0.5
2 電気機器	13.4	-0.3
3 銀行業	11.3	-0.8
4 卸売業	8.7	+0.0
5 機械	6.7	+0.4
6 非鉄金属	5.2	-0.6
7 不動産業	4.6	+0.5
8 保険業	4.1	+0.1
9 小売業	3.8	-1.1
10 鉄鋼	3.2	-0.6

※ 業種は東証業種分類です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り（％）	2.3	-0.2
PER（倍）	15.2	+1.1
PBR（倍）	1.2	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。配当利回りとPERは予想ベース、PBRは実績ベースです。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄（％）

組入銘柄数 50		
銘柄	業種	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	5.9
2 三菱商事	卸売業	4.9
3 日立製作所	電気機器	4.8
4 三井不動産	不動産業	4.6
5 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.5
6 ゆうちょ銀行	銀行業	3.8
7 本田技研工業	輸送用機器	3.4
8 フジクラ	非鉄金属	3.0
9 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	保険業	2.6
10 三越伊勢丹ホールディングス	小売業	2.6

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは、いちよしアセットマネジメント株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

日本株式（中小型）：いちよし日本中小型株ファンド（適格機関投資家専用）

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	97.6	+0.8
プライム	94.3	+0.9
スタンダード	3.1	-0.2
グロース	0.2	-0.0
その他	0.0	0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	2.4	-0.8
合計	100.0	0.0

組入上位10業種（%）

	当月末	前月比
1 機械	12.6	+0.9
2 化学	11.8	+2.0
3 サービス	11.8	-1.1
4 情報・通信	11.1	+0.9
5 卸売	9.4	-0.5
6 ガラス・土石製品	8.1	-0.3
7 その他製品	5.0	-0.6
8 不動産	4.1	+0.2
9 電気機器	4.1	-1.1
10 精密機器	3.7	-0.1

※ 業種は東証業種分類です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り（%）	2.4	-0.1
PER（倍）	15.9	+0.7
PBR（倍）	1.7	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りとPERは予想ベース、PBRは実績ベースです。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄（%）

組入上位10銘柄（%）		（組入銘柄数 111）	
銘柄	業種	比率	
1 USEN-NEXT HOLDINGS	情報・通信業	3.5	
2 日本M&Aセンターホールディングス	サービス業	3.1	
3 タムロン	精密機器	3.1	
4 MARUWA	ガラス・土石製品	3.0	
5 ニチアス	ガラス・土石製品	2.9	
6 スターツコーポレーション	不動産業	2.8	
7 シンプレクス・ホールディングス	情報・通信業	2.7	
8 東京都競馬	サービス業	2.4	
9 コメダホールディングス	卸売業	2.4	
10 メタウォーター	電気・ガス業	2.4	

※ 資産構成比率、組入上位10銘柄の比率は、いちよし中小型株マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入上位10業種の比率は、株式評価額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

米国株式：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー US・コア・エクイティ・ファンド（USDアキュムレーション・シェア）

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.6	-0.7
先物等	0.0	0.0
現金等	0.4	+0.7
合計	100.0	0.0

組入上位10カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	100.0	+0.0
2 イスラエル	0.0	-0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り（％）	1.4	-0.1
PER（倍）	19.4	+1.0
PBR（倍）	3.3	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 配当利回り、PER、PBRはいずれも実績ベースです。
※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 情報技術	23.7	-0.2
2 金融	15.2	+0.0
3 資本財・サービス	13.4	-0.0
4 ヘルスケア	11.9	-0.4
5 一般消費財・サービス	10.4	-0.1
6 コミュニケーション・サービス	6.7	+0.5
7 エネルギー	6.3	+0.3
8 生活必需品	6.2	-0.1
9 素材	4.2	-0.1
10 公益事業	1.8	-0.1

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 2,336）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 Microsoft Corp	アメリカ	情報技術	5.0
2 Apple Inc	アメリカ	情報技術	4.4
3 NVIDIA Corp	アメリカ	情報技術	3.5
4 Alphabet Inc	アメリカ	コミュニケーション・サービス	2.4
5 Amazon.com Inc	アメリカ	一般消費財・サービス	1.8
6 Meta Platforms Inc	アメリカ	コミュニケーション・サービス	1.2
7 Eli Lilly & Co	アメリカ	ヘルスケア	1.1
8 JPMorgan Chase & Co	アメリカ	金融	1.0
9 Exxon Mobil Corp	アメリカ	エネルギー	1.0
10 UnitedHealth Group Inc	アメリカ	ヘルスケア	0.9

※ 資産構成比率は、純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入上位10カ国・地域、組入上位10業種、組入上位10銘柄の比率は、株式評価額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

欧州株式（バリュー）：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー ヨーロピアン・バリュー・ファンド（USDアキュムレーション・シェア）

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.8	-0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	0.2	+0.2
合計	100.0	0.0

組入上位10カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 イギリス	21.3	+0.6
2 フランス	18.3	-0.0
3 スイス	14.5	-0.9
4 ドイツ	13.1	+0.4
5 オランダ	7.2	-0.0
6 イタリア	5.9	+0.1
7 デンマーク	5.6	-0.3
8 スペイン	4.7	+0.4
9 スウェーデン	4.3	-0.3
10 ノルウェー	1.4	-0.1

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り（％）	4.6	-0.3
PER（倍）	8.6	+0.7
PBR（倍）	1.1	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 配当利回り、PER、PBRはいずれも実績ベースです。
※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 金融	29.2	+1.0
2 一般消費財・サービス	13.5	-0.6
3 エネルギー	13.2	+0.1
4 素材	10.7	+0.6
5 ヘルスケア	9.2	-0.9
6 資本財・サービス	8.6	-0.2
7 コミュニケーション・サービス	6.3	+0.3
8 生活必需品	5.8	-0.2
9 公益事業	1.8	-0.0
10 情報技術	1.5	-0.1

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 194）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 Shell PLC	イギリス	エネルギー	5.0
2 TotalEnergies SE	フランス	エネルギー	4.4
3 Novartis AG	スイス	ヘルスケア	3.0
4 HSBC Holdings PLC	イギリス	金融	2.9
5 Banco Santander SA	スペイン	金融	2.8
6 Stellantis NV	イタリア	一般消費財・サービス	2.5
7 UniCredit SpA	イタリア	金融	2.5
8 UBS Group AG	スイス	金融	2.2
9 Mercedes-Benz Group AG	ドイツ	一般消費財・サービス	2.2
10 Cie de Saint-Gobain SA	フランス	資本財・サービス	2.1

※ 資産構成比率は、純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入上位10カ国・地域、組入上位10業種、組入上位10銘柄の比率は、株式評価額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

欧州株式（小型）：ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー ヨーロピアン・スモール・カンパニーズ・ファンド（USDアキュムレーション・シェア）

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.9	+0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	0.2	-0.2
合計	100.0	0.0

組入上位10カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 イギリス	26.1	+0.3
2 スイス	13.9	-0.4
3 ドイツ	11.1	+0.2
4 フランス	9.2	-0.0
5 イタリア	7.9	+0.1
6 スウェーデン	5.2	+0.0
7 デンマーク	4.8	-0.2
8 スペイン	4.8	+0.2
9 ベルギー	4.1	-0.1
10 フィンランド	3.8	-0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り（％）	3.2	-0.2
PER（倍）	11.7	+0.6
PBR（倍）	1.4	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 配当利回り、PER、PBRはいずれも実績ベースです。
※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 資本財・サービス	25.8	-0.1
2 金融	16.4	+0.2
3 一般消費財・サービス	11.2	-0.0
4 素材	8.0	+0.3
5 情報技術	8.0	-0.5
6 ヘルスケア	5.4	-0.2
7 リート	5.4	+0.2
8 生活必需品	4.7	-0.0
9 不動産	4.6	+0.1
10 コミュニケーション・サービス	4.5	-0.0

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 1,356）

銘柄	国・地域	業種	比率
1 Swiss Prime Site AG	スイス	不動産	0.5
2 Georg Fischer AG	スイス	資本財・サービス	0.5
3 Baloise Holding AG	スイス	金融	0.5
4 Leonardo SpA	イタリア	資本財・サービス	0.5
5 PSP Swiss Property AG	スイス	不動産	0.5
6 Helvetia Holding AG	スイス	金融	0.5
7 GEA Group AG	ドイツ	資本財・サービス	0.5
8 SCOR SE	フランス	金融	0.4
9 LEG Immobilien SE	ドイツ	不動産	0.4
10 Gaztransport Et Technigaz SA	フランス	エネルギー	0.4

※ 資産構成比率は、純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入上位10カ国・地域、組入上位10業種、組入上位10銘柄の比率は、株式評価額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

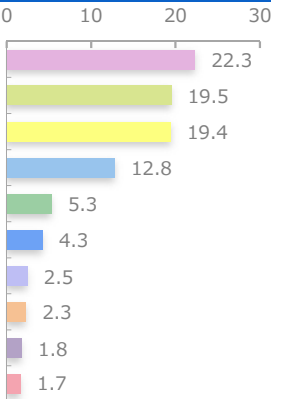
新興国株式：ディメンショナル・エマージング・コア・エクイティ・マーケット・ETF

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	99.9	+0.6
先物等	0.0	0.0
現金等	0.1	-0.6
合計	100.0	0.0

組入上位10カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 中国	22.3	-0.1
2 台湾	19.5	+0.7
3 インド	19.4	-0.4
4 韓国	12.8	+0.4
5 ブラジル	5.3	-0.2
6 サウジアラビア	4.3	-0.2
7 メキシコ	2.5	+0.1
8 南アフリカ	2.3	+0.1
9 インドネシア	1.8	-0.1
10 タイ	1.7	-0.1



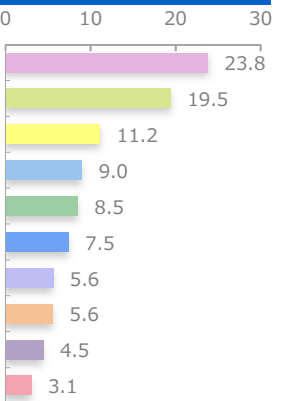
ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
配当利回り (%)	2.6	-0.0
PER (倍)	14.1	+0.5
PBR (倍)	1.7	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
※ 配当利回り、PER、PBRはいずれも実績ベースです。
※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 情報技術	23.8	+0.9
2 金融	19.5	-0.4
3 一般消費財・サービス	11.2	-0.1
4 資本財・サービス	9.0	+0.1
5 素材	8.5	-0.0
6 コミュニケーション・サービス	7.5	+0.1
7 生活必需品	5.6	-0.1
8 エネルギー	5.6	-0.2
9 ヘルスケア	4.5	-0.2
10 公益事業	3.1	-0.1



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 5,381)

銘柄	国・地域	業種	比率
1 Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd	台湾	情報技術	6.9
2 Samsung Electronics Co Ltd	韓国	情報技術	3.3
3 Tencent Holdings Ltd	中国	コミュニケーション・サービス	2.9
4 Alibaba Group Holding Ltd	中国	一般消費財・サービス	1.6
5 Reliance Industries Ltd	インド	エネルギー	1.2
6 Petroleo Brasileiro SA	ブラジル	エネルギー	1.0
7 SK Hynix Inc	韓国	情報技術	0.8
8 China Construction Bank Corp	中国	金融	0.8
9 ICICI Bank Ltd	インド	金融	0.8
10 Infosys Ltd	インド	情報技術	0.8

※ 資産構成比率は、純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入上位10カ国・地域、組入上位10業種、組入上位10銘柄の比率は、株式評価額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

ファンドの特色

- 主として、日本を含む世界の割安株や中小型株等に投資を行います。
 - 実際の運用は、投資信託証券（ETFを含む）への投資を通じて行います。
- 投資対象とする国・地域（米国、欧州、日本および新興国）の配分にあたっては、いちよし証券の助言を活用します。
 - いちよし証券から投資環境分析に基づいた、国・地域への投資配分に関する投資助言を受けます。
 - 各国・地域（米国、欧州、日本および新興国）への投資配分比率は、株価のバリュエーション分析に基づいた割安度等を基に決定し、原則3か月毎に見直します。
 - 投資信託証券への投資にあたっては、各国・地域毎に、情報収集・運用能力に優れた運用会社が運用する投資信託証券を三井住友DSアセットマネジメントが厳選します。また、継続的にモニタリングを行い、必要な場合は除外・追加も行います。
- 実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
 - 基準価額は為替変動の影響を受けます。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

投資リスク

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 中小型株は、株式市場全体の値動きと比較して、相対的に値動きが大きくなることもあり、ファンドの基準価額の変動も大きくなる場合があります。また、中小型株の値動きが株式市場全体の値動きと異なる場合、ファンドの基準価額の値動きは、株式市場全体の値動きと異なることがあります。
- 投資対象国によっては、有価証券の売買を行う際の売買益等に対して課税される場合があります。将来、これらの税率や課税方法が変更された場合、または新たな税制が適用された場合、基準価額に影響を及ぼすことがあります。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2022年6月30日設定）

決算日

毎年6月10日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ダブリンの取引所の休業日
- ロンドンの取引所の休業日
- ニューヨークの取引所の休業日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
ありません。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）

信託報酬の総額は①基本報酬および②実績報酬の合計です。

①基本報酬

ファンドの純資産総額に年0.627%（税抜き0.57%）の率を乗じた額が日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。

②実績報酬

毎営業日、実績報酬控除前の基準価額がハイ・ウォーター・マークを上回った場合に、その超過額の5.5%（税抜き5%）が計上され、ファンドの基準価額に反映されます。実績報酬は、ファンドの運用実績に応じ販売会社が受け取る報酬です。

※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、年0.843%～年1.232%（税抜き0.786%～1.12%）程度となります。

ただし、投資対象とする投資信託の運用管理費用は、料率が把握できる費用の合計であり、上記以外の費用がかかる場合があります。

また、年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回る場合があります。

上記の料率は、2023年12月末現在で知り得る情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。

- その他の費用・手数料

以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。

- 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
- 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
- 資産を外国で保管する場合の費用 等

※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。

※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 株式会社SMBC信託銀行
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資助言会社	ファンドの投資対象とする国・地域の配分に関する投資助言を行います。 いちよし証券株式会社

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第24号	○		○			

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

